

会 議 結 果

会議名	平成30年度 第5回西尾市地域公共交通活性化協議会
日時	平成31年3月25日(月) 午前10時15分～11時45分
場所	西尾市役所 5階 53会議室
出席者	西尾市地域公共交通活性化協議会委員16名 事務局4名 (欠席:小林裕之委員、鈴木英治委員、河合貴夫委員)
傍聴者	5名
議 事	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料確認 ・石原会長あいさつ <p>2 議題</p> <p>(1) 公共交通の利用状況について(報告事項)</p> <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料1により説明。 <p>○石原会長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局としてはどのように評価しているか。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いっちゃんバスについては減少となっているが、何とか皆さんに使ってもらえる路線となるよう、地域が熱意を持って見直しを進めている最中である。その他の路線については、全国的に電車・バスの公共交通利用が堅調に推移しており、西尾市も同様にこれまでの通学定期に加えて定期外・通勤定期が好調であるが、この傾向がいつ変わるかわからないため、順調なうちから利用促進策をしっかりと展開していきたい。 <p>○清水委員(西尾市代々表町内会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いこまいかーは効率的でいいシステムだと思うが、1回あたりの利用人数はどの程度か。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所や時間が近い予約があれば東ねて運行する乗合タクシーであるが、現状では年間利用者数が1,500人程度で乗合が発生する利用規模となっておらず、1便平均で1.2人の利用となっている。 <p>(2) 名鉄東部交通バス寺津線、平坂・中畑循環線の廃止意向について(報告事項)</p> <p>○加藤委員(名鉄東部交通株)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2により説明。 ・一番大きな要因は乗務員の確保が困難であること。現在28人いるバス運転手の中で、正社員は平均年齢51歳、契約社員は69歳となっており、今後の見通しが立たない状況である。 ・また、2020年4月の藤田病院開院に伴い岡崎西尾線を迂回する関係で、そちらへ人員を回す必要もある。 ・そういった中で、地域間幹線系統である岡崎西尾線、一色線は引き続き運行するものの、市内路線である寺津線、平坂・中畑循環線については、一部で六万石くるりんバスと重複していることもあり、2020年4月1日付けで廃止する意向である。 <p>○事務局</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寺津線、平坂・中畑循環線については、運行赤字分は全て市で補助を行っているが、乗務員の

確保という全国的な問題であるということまで致し方ない部分もある。この後の議題で説明するが、沿線地域については市の路線として再編でしっかりとカバーしていく。

○松尾副会長

- ・全国的に運転手不足による廃止・減便の話が出ており、残念ではあるが致し方ない部分もある。
- ・これまでの運行で蓄積してきたデータや運転手の肌感覚が、再編の中でとても重要となるため積極的に提供してもらいたい。

○石原会長

- ・今あるバス停などはどうなるのか。

○事務局

- ・路線廃止の際には標識を撤去し、道路占用の廃止手続きを行うことになると思う。もし可能であれば再編後の新路線のバス停として活用させてもらいたい。

○加藤委員（名鉄東部交通株）

- ・資産的な話は別になるが、今ある標識の占有者変更というかたちで対応はできると思う。

○古田委員（名鉄東部交通株労働組合）

- ・赤字路線に市から補助を行っているとの話であったが、各路線ごとの赤字積算かそれとも会社全体でのどんぶり勘定か。

○事務局

- ・2路線に一色線・岡崎西尾線を加えた4路線それぞれで赤字額を積算している。会社全体のキロ単価経費に路線の実車キロ数を乗じて得られた数字から各路線の収入を差し引いた金額を補助している。

○清水委員（西尾市代々表町内会長）

- ・来年4月1日での廃止とのことだが、地域住民への周知はどのように行うのか。

○事務局

- ・この後の議題で説明させていただくが、バス交通再編にあたり春頃に各地域を回りながら意見交換会を行う予定であるため、再編でカバーしていく旨も含めてそこで説明していきたい。

◎議題（2）について、2路線の廃止及び六万石くるりんバスでカバーする旨を全会一致で承認。

（3）バス交通再編方針（案）について（協議事項）

○事務局

- ・資料3により説明。

○颯田委員（西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団）

- ・廃止になる2路線は市のような小さいバスを入れるのか、それとも今の名鉄東部交通のような大きな車両を入れるのか。一番問題となるのが朝夕の通勤通学利用だと思う。くるりんバスのような車両では難しいのではないかと。町内会などへの説明だけでなく実際の利用者の学生・通勤者の話を聞くのが大事だと思う。

○事務局

- ・自分の通勤時に2路線を利用しているが、多くて15人程度の利用である。車両については、小さければ無駄が無くなるとよく言われるが、利用者数の最大値を考慮しないと乗りこぼしということもあるため、OD調査等のデータを分析するとともに、現状の通勤通学利用者の声も聞きながら影響が無いようにしていきたい。

○杉本委員（中部運輸局愛知運輸支局）

- ・来年の1年間がとても重要になる。通勤通学は名鉄東部交通バスの利用が多く、日中のおでかけはくるりんバスが利用が多いと、時間帯によって使い分けられるのはよくあることだが、名古屋市のきたバスでは朝夕便と昼間便で全く系統が違っている。朝夕便は通勤通学者のために経路が決められており、昼間便は通院や買い物用に決められている。そういうやり方もある

ので参考にさせていただければと思う。

- ・同じく参考事例として、豊川市では民間路線も含めてゾーン制運賃を採っており、市境で急激に運賃が上がらないように市の負担で激変緩和措置を行っている。
- ・先ほど副会長の話にもあったが、事業者の持っているデータをしっかりと活用していい再編としてほしい。これだけの大きな再編となると、もしかしたら網形成計画の見直しが必要になるかもしれないため、支局の企画担当に相談してほしい。また、新しい路線については、運転手の連続運転時間も考慮してダイヤを組んでほしい。

○石原会長

- ・個人的な考えだが、バスでも電車のように特急便ができないか。通勤通学時間には特急便、昼間帯は普通便のような対応でも面白いと思う。

○松尾副会長

- ・現在の名鉄東部交通バスでは、路線をまたぐような利用区間の定期券は路線ごとの発行または通しでの発行どちらで行っているか。今後2路線が廃止となり市で対応して行く場合に、定期券の連携も考えなくてはならない。運営が違うから方式も異なるとなると利用者が不便となる。

○鋤柄氏（名鉄東部交通株）

- ・路線をまたぐ区間でも通しでの定期となっている。再編のかたちがある程度見えてきたら、市と相談しながら進めていきたい。

○事務局

- ・市としても共通定期のようなかたちで利用者利便を図ればと思っているため、事業者としっかりと連携しながら考えていきたい。

○早川委員（東伸運輸株）

- ・再編スケジュールについて、運行事業者の立場としては9月中にはルート及びダイヤを決めていただけると助かる。ドライバーの確保等もあるため、早め早めに決めていてもらいたい。

◎議題（3）について全会一致で承認。

3 その他

(1) 意見交換

○石原会長

- ・今年度最後の会議となるため西尾市の公共交通について日頃感じていることをお伺いしたい。

○颯田委員（西尾市名鉄西尾・蒲郡線応援団）

- ・皆さんのおかげでにしがま線の乗車人数が増加している。2年後に存続の交渉となるが、5年以上、10年以上と存続していければと思う。引き続き協力をお願いしたい。

○山崎副会長

- ・今年度5回の会議にご出席いただきお礼を申し上げたい。一昨年度から、老人会などに出かけて行って乗り方教室を実施したり、公共交通の見える化を推進したりしている。西尾市は特に自家用車の利用が多く、今後ますます公共交通を利用する文化を醸成していく必要があると考えている。引き続き皆さんの知恵をお借りしたい。

○岡田委員（西尾市民生委員児童委員協議会）

- ・高齢者の支援が主な役割となるが、車を運転できない高齢者には公共交通しか移動手段がない。一方で、民間のスーパーなどが移動販売で集落に来てくれるような解決策も考えてもらいたい。

○清水委員（西尾市代々表町内会長）

- ・課題が多くあると思うが、利用者、地域住民、運行事業者の意見をうまくまとめていただいて利便性の高い公共交通ネットワークを実現してもらいたい。

○田中委員（西尾市観光協会）

- ・平坂中畑線と寺津線が廃止になるということで、西廻り線も大きく変わると思う。基本的には

市民の足だと思うが、観光の面から考えると、西野町地区の茶園公園などに行けるように工夫して改正もらいたい。

○中村委員（西尾市障害者福祉団体連合会）

- ・他市との交流という点で碧南にはふれんどバス、岡崎には岡崎西尾線が走っているが、もっと使いやすくするとともに、PRをしっかりともらいたい。三河線が無くなって碧南に行けなくなったと思っている人がまだいる。

○彦坂委員（愛知県西尾警察署交通課）

- ・公共交通の充実が高齢者の免許返納・交通事故減少につながる。使いやすいバス路線となるよう再編をお願いしたい。

○大井委員（愛知県西三河建設事務所西尾支所管理課 代理）

- ・公共交通の充実が交通渋滞・事故の減少に資するため、引き続き活性化をお願いしたい。

○杉本委員（中部運輸局愛知運輸支局）

- ・まずバスに乗るきっかけをつくってもらいたい。高齢者の乗り方教室も必要だが、子ども世代にもきっかけづくりをすることで、子どもの時のバスに乗るワクワク感が、大きくなってバスに乗る際のハードルを下げることになる。再編後の路線の周知も、きめ細かい説明会も大事だが、公共交通セミナーと乗り方教室を同時に行うなど工夫を凝らすとよりいい。西尾市の公共交通がよりよくなっていくことを期待している。

○安藤委員（愛知県交通対策課 代理）

- ・にしがま線はもちろん存続してってもらいたい、バス、タクシーも含めて公共交通全体をより使いやすいものとしてってもらいたい。

○古田委員（名鉄東部交通(株)労働組合）

- ・吉良地区でいこまいかーの利用が増えているということで、安全安心運行はもちろんのこと、地域に必要とされているという使命感も持ちながら運行を担っていきたい。

○吉岡委員（名鉄バス(株)）

- ・乗務員不足等の色々な問題があるが、それを乗り越えて公共交通全体の向上に協力していきたい。

○加藤委員（名鉄東部交通(株)）

- ・バスだけでなくタクシーもうまく活用した便利な交通ネットワークとなるよう協力していきたい。

○早川委員（東伸運輸(株)）

- ・他市のコミュニティバスも担当しているが、再編の際はどこも大変苦労している。楽しくワクワクするコミュニティバスとなるよう全面的に協力していきたい。

○松尾副会長

- ・路線廃止の話もあったが、その中でも良かった点としては、幹線路線を残していただいたこと、かなり早い段階で市に相談をしてもらっていたことである。おかげで対応を考える時間ができた。再編のタイミングと重なったことも不幸中の幸いで、この話をピンチではなくチャンスとしていける機会になったのではないかと。地域も危機感を持って考えてくれるため、地域を巻き込んでいきやすいのではないかと。
- ・この地域の素晴らしいなと思った点は、いこまいかーの利用者増の要因としてもあったが、民生委員さんに協力してもらって高齢者への利用促進を行っている点である。他の地域にも事例紹介させてもらっているため、今後もぜひ続けてってもらいたい。

(2) にしがま線沿線ガイドマップ・レンタサイクル「にしがま号」について

○事務局

- ・にしがま線沿線ガイドマップ及びレンタサイクル「にしがま号」開始の紹介。

4 閉会

以上